



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場会社名 株式会社安楽亭 上場取引所 東
 コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)柳 時機
 問合せ先責任者 (役職名)取締役総務人事部長 (氏名)本多 英明 (TEL)048(859)0555
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日~平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	11,077	△13.4	△174	—	△251	—	△328	—
23年3月期第3四半期	12,798	△1.5	319	49.7	217	178.1	224	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △331百万円(—%) 23年3月期第3四半期 221百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△15 33	—
23年3月期第3四半期	10 50	10 28

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	14,151	4,867	34.3
23年3月期	14,881	5,199	34.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 4,860百万円 23年3月期 5,192百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
24年3月期	—	0 00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0 00	0 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,628	△7.2	△81	—	△194	—	△285	—	△13 32

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

24年3月期3Q	21,504,347株	23年3月期	21,504,347株
24年3月期3Q	108,500株	23年3月期	108,401株
24年3月期3Q	21,395,678株	23年3月期3Q	21,398,265株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災、その後の原子力発電所問題の影響により依然として厳しい状況にある中で、一部景気に持ち直しに向けた動きが見られるものの、雇用回復の鈍化、欧州財政危機による海外経済の減速や円高の長期化、タイの洪水被害による影響等、様々な悪条件が生じ、先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループの主力事業である外食業界におきましても、消費者の節約志向は依然として強く、それに加え焼肉業界におきましては、他社焼肉チェーン店における集団食中毒事件の余波が残る中、放射性セシウムが牛肉から検出されたことにより牛肉を控える傾向等の甚大な被害、影響を受けました。

当社では、これまで川上から川下にいたるサプライチェーン組織の各段階における衛生管理を徹底し、販売する商品に対して万全の体制を構築してまいりましたが、従来にも増して衛生・品質管理の向上を推し進め、より一層の「安全・安心」の提供を行うとともに、お客様からのより一層のご理解、ご支持をいただける様、努めてまいりました。

また、このように提供する商品の「安全・安心」に加えて、おもてなしの心を込めた接客や店舗空間のあり方についても、時代に対応した新たなものに変革するために、人材の採用や教育の改善等を鋭意進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高110億77百万円（前年同四半期比13.4%減）、営業損失1億74百万円（前年同四半期は営業利益3億19百万円）、経常損失2億51百万円（前年同四半期は経常利益2億17百万円）、四半期純損失3億28百万円（前年同四半期は四半期純利益2億24百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

① 安楽亭業態

当第3四半期連結累計期間に新規出店1店舗、業態変更により1店舗が増加する一方、既存店の見直しにより4店舗が閉鎖した結果、安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は205店舗であります。内訳は直営166店舗、暖簾5店舗、FC34店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「スポーツの秋！ファミリービッグ増量フェア！！」、「飲み放題800円」や「上タン塩も食べ放題」等の人気の食べ放題企画、「半額クーポン祭り」、「韓流焼肉フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや「ピリっと！コク旨の味噌」と「魚介が香る！あっさり塩」の2種類のスンドゥブチゲ等、新メニュー作りを行ってまいりました。また、人気テレビ番組で安楽亭の人気メニューランキングが紹介され、ご好評をいただきました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は94億1百万円（前年同四半期比13.2%減）となり、セグメント利益は1億70百万円（前年同四半期比71.0%減）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は24店舗であります。内訳は直営21店舗、暖簾1店舗、FC2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「期間限定！行楽焼肉セット」や「松阪牛プレゼントフェア」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は12億23百万円（前年同四半期比14.7%減）となり、セグメント利益は19百万円（前年同四半期比81.0%減）となりました。

③ その他業態

当第3四半期連結累計期間に安楽亭への業態変更により1店舗が減少し、1店舗がFC契約を解約した結果、その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は17店舗であります。内訳は直営8店舗、暖簾3店舗、FC6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「楽コンセプト(焼肉)」、「まんぼく(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「V a r i e (ステーキ・ハンバーグ)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」等を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は4億52百万円（前年同四半期比15.7%減）となり、セグメント損失は36百万円（前年同四半期はセグメント損失8百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ7億29百万円減少し、141億51百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したこと、有形固定資産の減価償却、敷金及び保証金が減少したこと等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ3億97百万円減少し、92億84百万円となりました。これは主に、借入金の減少及び設備購入に係る割賦未払金の支払により割賦未払金及び長期割賦未払金が減少したこと等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億32百万円減少し、48億67百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年11月9日に公表しました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	994,530	743,811
受取手形及び売掛金	245,125	255,870
商品及び製品	104,457	146,087
仕掛品	255	396
原材料及び貯蔵品	282,458	298,375
前払費用	242,479	222,597
繰延税金資産	58,729	1,422
その他	162,878	103,237
貸倒引当金	△1,325	—
流動資産合計	2,089,590	1,771,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,006,962	2,804,646
機械装置及び運搬具(純額)	23,610	20,781
工具、器具及び備品(純額)	97,694	78,285
土地	6,002,292	6,002,292
リース資産(純額)	25,488	21,600
建設仮勘定	5,136	4,208
有形固定資産合計	9,161,185	8,931,814
無形固定資産		
99,273		103,303
投資その他の資産		
投資有価証券	61,443	57,771
長期貸付金	936,748	900,151
長期前払費用	31,430	30,837
繰延税金資産	11,842	10,743
敷金及び保証金	3,186,736	3,020,926
その他	62,274	62,147
貸倒引当金	△759,163	△737,703
投資その他の資産合計	3,531,313	3,344,875
固定資産合計	12,791,771	12,379,993
資産合計	14,881,362	14,151,793

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	377,128	552,516
短期借入金	6,976,846	6,857,632
リース債務	5,896	5,443
割賦未払金	196,139	88,770
未払金	252,100	260,395
設備関係未払金	46,512	19,731
未払費用	471,372	454,112
未払法人税等	89,837	73,836
未払消費税等	48,038	101,463
賞与引当金	77,000	37,000
その他	149,235	135,961
流動負債合計	8,690,109	8,586,862
固定負債		
長期借入金	350,904	120,909
リース債務	21,319	17,236
長期割賦未払金	67,303	15,596
繰延税金負債	131,938	115,453
退職給付引当金	112,036	113,002
役員退職慰労引当金	236,862	245,595
その他	70,985	69,485
固定負債合計	991,349	697,278
負債合計	9,681,458	9,284,141
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,359	2,537,261
利益剰余金	△435,057	△763,063
自己株式	△66,164	△66,105
株主資本合計	5,218,523	4,890,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△26,520	△30,285
その他の包括利益累計額合計	△26,520	△30,285
新株予約権	7,900	7,460
純資産合計	5,199,903	4,867,652
負債純資産合計	14,881,362	14,151,793

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	12,798,390	11,077,668
売上原価	4,622,544	4,061,212
売上総利益	8,175,846	7,016,456
販売費及び一般管理費	7,856,361	7,190,778
営業利益又は営業損失(△)	319,484	△174,322
営業外収益		
受取利息	30,156	26,440
受取配当金	1,287	1,289
受取地代家賃	8,207	8,012
貸倒引当金戻入額	—	1,700
その他	28,696	27,958
営業外収益合計	68,348	65,401
営業外費用		
支払利息	159,422	133,450
その他	11,101	8,928
営業外費用合計	170,523	142,379
経常利益又は経常損失(△)	217,309	△251,300
特別利益		
固定資産売却益	—	2,476
貸倒引当金戻入額	17,485	—
賞与引当金戻入額	418	—
受取補償金	48,176	30,464
特別利益合計	66,079	32,941
特別損失		
固定資産除却損	2,027	1,502
減損損失	1,907	6,128
投資有価証券評価損	100	—
賃貸借契約解約損	6,160	8,004
特別損失合計	10,196	15,636
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	273,193	△233,995
法人税、住民税及び事業税	46,933	52,097
法人税等調整額	1,562	41,913
法人税等合計	48,496	94,011
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	224,696	△328,006
四半期純利益又は四半期純損失(△)	224,696	△328,006

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	224,696	△328,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,970	△3,765
その他の包括利益合計	△2,970	△3,765
四半期包括利益	221,726	△331,771
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	221,726	△331,771

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,826,139	1,434,999	537,251	12,798,390	12,798,390	—	12,798,390
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	10,826,139	1,434,999	537,251	12,798,390	12,798,390	—	12,798,390
セグメント利益又は 損失(△)	588,016	103,477	△8,996	682,497	682,497	△363,012	319,484

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、1店舗の一部が道路収用予定のため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては1,907千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	9,401,538	1,223,378	452,751	11,077,668	11,077,668	—	11,077,668
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,401,538	1,223,378	452,751	11,077,668	11,077,668	—	11,077,668
セグメント利益又は 損失(△)	170,518	19,678	△36,440	153,757	153,757	△328,079	△174,322

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、1店舗が閉鎖予定のため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6,128千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。